

会議録（要旨）

件名	令和3年度 第1回亀岡市総合教育会議
日時	令和3年4月27日（火）午後1時30分～3時40分
場所	市役所1階 市民ホール
出席委員	8人 桂川市長／石野副市長／神先教育長／江口教育長職務代理者／ 北村教育委員／末永教育委員／出藏教育委員／福嶋教育委員
欠席委員	なし
事務局出席者	9名 片山教育部長／久保教育部次長兼総括指導主事／ 亀井教育総務課長／三宅学校教育課長／樋口社会教育課長兼社会教育係長事務取扱／谷口みらい教育リサーチセンター所長兼まなびサポート係長事務取扱／阿比留教育総務課総務係長／ 高木企画調整課長／高木企画調整課企画経営係長
傍聴者数	0名

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項「教育施策の重点項目」について

（1）新型コロナウイルス感染症の影響について（資料1）

- ・令和2年度における学校現場の状況
- ・令和3年度の対応

教育長（説明要旨）

- ・令和2年度における学校現場の状況

学校の臨時休校中は、家庭学習課題をプリントで用意したり、各学校が独自に動画を作成して発信したり、家庭訪問等による対面で各児童生徒の様子を把握に努め、学習保障や心のケアに取り組んだ。

修学旅行・宿泊体験学習は中止、運動会・体育祭・文化祭等は、規模縮小で実施した。コロナ禍の状況下、学校並びに児童生徒たちは、考える力を発揮し、学校の規模等を考慮した学校や学年単位で工夫した行事を実施した。

感染症対策に係る経費を学校規模に応じて各学校に配分し、また、校内清掃消毒業務を、スクール・サポート・スタッフ等を配置し実施した。

・令和3年度の対応

修学旅行について、今年度は、緊急事態宣言期間中を避け、中学生は九州方面で平和に関する学習を踏まえたものを、小学6年生は、奈良・三重方面、小学校5年生はマリニピア等での体験学習を実施していきたい。運動会・体育祭・文化祭等は、昨年度の事例を参考に、子どもたちの安全・安心を考慮に入れ計画を進めている。

感染症対策に係る経費を学校規模に応じ配分いただくものを工夫して、対策を行っていく。校内の清掃・消毒作業に従事するスクール・サポート・スタッフは配置済み、または配置調整中の状況である。

委員

令和2年度については、2か月間の休校からのスタートで、その間、ずっと子どもたちは家庭にいる状況が続いた。この状況下で、家庭とは、「出かけたがり・巣立ったり・自立していったり・戻って来られる場所」だと強く感じた。

学校についても、子どもたちが朝登校し、夕方下校する場所ではなくなったことで、改めて学校の本来の姿について認識することができたと思う。

学校においては、この間、いろいろな工夫をしていただき、ご苦勞をいただいたところであるが、その時期に学校を訪問し、様々な現状や課題を見させていただく中で、オンライン授業の必要性について感じた。

昨年度、学力学習状況調査は実施されなかったが、学習に関する意識調査が行われ、児童生徒の自己有用感が高まっているという報告を受けた。コロナ禍の学校現場において様々な工夫で取り組まれたことが、子どもたちの意識として表れていると感じている。この状況で、今年度、学習調査が行われ、その結果を今から楽しみにしている。

ワクチンの接種について、予定等分かるのであればお話いただきたい。

アルコール消毒について、学校施設を、抗菌抗ウイルスとなる、銅やチタンを噴霧し、コーティングすることで、長期的にウイルスを寄せ付けない安全・安心な取り組みをしてはどうかと考える。私が運営する児童養護施設においても、施設全体と全公用車に実施し、これによって向こう半年は、アルコール消毒を行わなくても良い状況である。予算面の課題があるとは思いますが、公共施設として、今後考えていく必要があると思う。

修学旅行について、平和に係る学習という点で、小学生の修学旅行においても広島に行くことを考えてもよいのではと考える。

体育祭や文化祭は従来の形にとらわれることはなく、鑑賞型の文化祭や、体験型の体育祭にそれぞれ変えていくなど、令和3年度、4年度以降考えていただければと思う。

教育長

抗菌については、学校に対してサポート等多くの労力をいただいている。学校は本来安全・安心な場であるため、今もしっかりと取り組んでいただいているが、このような様々な意見をいただけるのはありがたい。

行事の見直しについては、コロナ禍をきっかけに学校は大きく変わってきている。また、学校や子どもたちは考える力を持っており、今までにない新たな取り組みが積み上げられている。今後も積極的に取り組んでいきたいと考えている。

市長

ワクチン接種について、本市においては、昨日から公共施設で接種を開始した。85歳以上の市民を対象に5/16・23・30に集団接種、5/24からは、個別接種を行う予定としている。

国からのワクチンの配布状況が明確でないため、16歳未満の接種については未定な状況。併せて16歳未満の方に接種した際の状況について、国から示されていないことも踏まえ、その影響について治験の報告を待ちたい。いずれにせよ、いち早くワクチンを手に入れたと考えている。

抗菌について、抗菌の種類も様々だが、今年度かめまるランドに抗菌するための予算、約500万円の計上を予定している。学校となると、1校あたり数千万円が必要と見込まれ、今すぐに抗菌ができる状況ではないといえる。

市としては、学校に対しても既に感染症対策等に係る経費を予算化している状況である。

委員

緊急事態宣言が出た際、いち早く市長のビデオメッセージを配信していただいたお陰で、市民として、保護者として、ワクチン接種のことなど状況を知ることができた。SNSも使い方次第だとつくづく感じた。

昨年度、春に三度も学校の先生が家庭訪問に来ていただいたことは保護者として嬉しかった。ずっと家庭にいる状況で乱れがちな子どもの生活リズムを整えることにおいても、とても有難く、学校教育の意義について考えさせられ、家庭教育において励みとなった。子どもたちは昨年一年で、耐え抜く力、たくましく生き抜く力、見えない学力を身に付けたのではないかと思う。コロナ禍であったからこそ強くなったねといえる教育現場を、教育委員としてサポートしていきたい。

今後も情報発信をスピーディーにさせていただきながら、学校として、未知な状況に恐れずにスクラムがゆるがないように、意識を高めていけるようにと願っている。

修学旅行について、思い出作りの一つの大きな行事である。修学旅行を実施できるよう、学校としても最後まであきらめない体制で取り組んでいただき、市には引き続き支援をお願いしたい。

教育長

子どもたちが元気に学校に通える状況、家庭学習を行うこと、仲間を思いや

る心について、今後も引き続き取り組んでいきたい。子どもたちは、現在落ち着いた状況で学校生活を送っているとのこと、たいへんありがたいと思っている。

修学旅行について、昨年度と今年度の大きく違うところは経験値であり、安全の確保を行い、行先の感染状況等により時期等を見定め、判断をしていきたい。

市長

昨年度約800万円のキャンセル料がかかった。今年度は、キャンセル料の経費がなるべく出ないように、例えば沖縄に行く案があったが、困難と判断し九州としたなど、検討していただいている。しかしキャンセルしなければならない時は、市として支援していかなければと思っている。

小学校の修学旅行について、平和に係る学習ということで広島に行ってもらいたいと私は考えている。亀岡市は、市制施行以来、平和都市を宣言しており、平和についてしっかり学習してほしいということで、教育長に提案している。

(2) ICT教育について(資料2)

教育長(説明要旨)

誰一人とりこぼすことなく、一人ひとりの学びや創造性を育むことを目指し、ICT教育に取り組む。ICT機器を使いこなすだけでなく、情報モラルについて学習する中で、多くの情報を選択し有効に活用する力(情報活用能力)を培うため、子どもたちが日常的にICTを活用する環境等、学習環境の充実を図ることが重要となる。一人一台のタブレット端末を活用し、教科での学びを深めながら課題解決に生かしていくため、子どもたちが自ら未来を切り開くツールとして利用していきたい。

現在のICT機器のハードウェアの整備状況について、1. iPad機器の配布 2. 校内ネットワークの整備 については完了している。3. 大型ディスプレイの整備は5月末完了予定 4. 高速インターネットの整備は校内システムの設定作業中で8月末までには整える。5. ICT支援員は本格稼働までに配置完了を目指す。

令和3年度のソフトウェアの整備日程について、1学期は、基本操作と使用上のルールを学ぶ。2学期は、不登校児童生徒のための利用や、校外学習で利用し、3学期には、リモート学習、遠隔教育等を進める。

ICT機器を活用した教育の推進について、ロードマップ作成と計画的な機器活用に関する教職員研修、1学期中はオフラインで行う。併せて今年度、詳徳中学校で実施の「魅力特色ある学校づくり授業」で使用されている授業支援ソフトの検証を経て、2学期以降は授業支援ソフト等を活用していく。

オンライン学習の推進について、端末を用いた持ち帰り学習として試行し、

学習内容の検討を行い、4月末からは、Wi-Fiモバイルルータを用いたネットワーク環境下において、本梅小学校・育親中学校で調べ学習において試行する。また、新型コロナウイルス感染症等による学級閉鎖時などの学習保障に備え、東輝中学校でのオンラインでの学習支援の試行を重ね、今後のオンライン学習の充実を図っていく。

このように小学校・中学校での試行を重ね、課題を捉え取り組んでいきたい。

実践力を高めるスキルの向上について、ICT機器を使った課題解決型学習に重点を置き、環境学習や、SDGsに取り組みながら先進地事例の収集、指導案の調査、検証等を重ねICT教育の充実を図っていきたいと考えている。

プログラミング教育の充実や学校ホームページの内容充実に向けた検討を行う。また、適応支援の必要な児童生徒や、院内学級に通う児童生徒についてもタブレットを配布し、学習支援・学習保障に取り組む。

子どもたちには、自ら未来を切り開く主体性と豊かな創造性を身に付けることが求められている。みらい教育リサーチセンターと、学力分析・研究について連携を図りながら、ICT教育の推進を図っていききたい。

委員

みらい教育リサーチセンターの開所式に出席し、GIGAスクール構想のスタートや、第5次亀岡市総合計画、教育振興基本計画を新しく策定する時期と絡みあった、亀岡の教育のスタートを感慨深く感じた。

ICT教育は、個々の学びを進めることと、協働的な学びを深めるためにたいへん有効で、かつ、これからの時代を生きていく子どもたちにはなくてはならないツールであるため、しっかり取り組んでいかなければならないと感じる。

一方で様々な課題や懸念について、一つひとつ解決することを、みらい教育リサーチセンターを中心に進めていただくことに期待している。

委員

ICT教育において誤解を招きがちだが、なんでもICTで解決できるということではないと考える。みらい教育リサーチセンター開所により、センターが抱える課題はたいへん大きいですが、今年度は、様々なことに取り組む中で、振り返りのプロセスが重要と考える。

過去において学校を閉鎖したことはなかったが、学校の脆弱性が明らかになった昨年度のコロナ禍の状況を反省すべき点と捉え、課題をそこに見出してこそ、そこから未来に対する創造性が生まれると考える。

ICT教育においても、様々な課題をポジティブな思考を生む手段と捉え、現場とともに議論し、課題解決に取り組むことの認識を是非していただきたい。

市長

みらい教育リサーチセンターにおいては、課題解決だけではなくもう一歩進め、方向性を示していく必要があると考える。大阪市はリモート学習を、今年度4月からスタートしている。感染状況が本市より厳しい状況であることや、スタート時期など、この違いはどこかにあると考える。

本市においても、一人一台のタブレットを家庭においてもインターネットで

使用できる環境を整備し、また不登校児童生徒においてもリモートで授業を受ける環境を整備することはたいへん重要と考える。

学校とみらい教育リサーチセンターとをどう繋ぐかについては、校長先生やOBの先生方にこの取り組みについてお願いしている。

今年度は果敢にチャレンジし、方向性を見い出すことが課題と考える。

教育長

みらい教育リサーチセンターの新設は、教育委員会全体の改革と考えている。ICT教育に限らず、センターは、様々な課題解決について考える中枢の場としての機能を持つ組織である。拾った現場の声をセンターで留まることなく、現場と連動する機関としてセンターは変化している。

市長

i P a dをどう扱うかについて教育委員会で考えてほしい。現在の小学校1年生については同じものを6年間持っても良いのではと考えるが、中学3年生についてはどうするのか考え予算要望までに方向性を検討してもらいたい。

(3) 保津川環境学習・ふるさと学習について (資料3)

教育長 (説明要旨)

事業趣旨について

- ・「世界に誇れる環境先進都市の推進」「ふるさとへの愛着や誇りを育む教育の推進」
- ・ふるさとの川「保津川」のプラスチックごみなどの環境問題について学ぶ
- ・環境問題解決に向け、「自ら取り組めること」を考え、今後の行動に繋げる

事業概要について

小学校から中学校にかけ、亀岡ならではの自然体験学習を通し、基礎学習から応用学習、発展学習へ環境問題について主体的に学ぶ意欲を育てる。

小学4年生で、「ゴミについて学ぼう」のテーマで、エコトピアの見学とエコラフティングを実施。小学5年生で、「海のごみを学ぼう」、小学6年生で、「環境について学ぼう」のテーマで、校外学習や修学旅行において環境学習を実施。中学1年生では「環境問題を考える」講演会を通して学習し、中学2年生で「保津川のごみを考える」学習で保津川下り体験を実施する。

令和3年度においては、千代川小学校をモデル校として4年生から6年生がエコラフティングを通して保津川河川敷で環境学習を行う。令和4年度以降は、全小学校4年生を対象に実施する。

中学校は令和3年度、全中学2年生を対象に、保津川下り体験を計画。事前学習及び船頭さんから現状についてお話を伺い、ごみが溜まる場所で下船しごみ拾いを行う。

なお、中学3年生による保津川下り体験学習については、令和3年度限りと

する。

亀岡ならではの自然体験型学習を通して、亀岡のごみ問題から地球全体の環境問題を考え、持続可能な脱炭素のまちづくりのために、自ら行動できる児童生徒を育成すること、及び義務教育を終えた時点で、子どもたち全員が保津川下り体験を通し、環境問題に取り組んだ語りができることを狙いとしている。

委員

子どもたちの興味や関心を引き出す長期的計画は素晴らしいと感じた。中学2年生の学習の後、これまでの集大成として生徒たちが発表する場があることは必要かと感じた。

委員

予算をつけていただいたこと、たいへんありがたいと感じた。

小中を通して、環境とふるさとを兼ねて学習することはとても良いことと感じた。特別支援学級の子どもたちの体験や、学びについて、どのようにするかについて考えていきたい。

保津川に着目した取り組みについてたいへんすばらしいと感じた。

ICT学習と関連付け、問題解決学習に取り組んでいただければと考える。

環境に先進的に取り組む亀岡市である。環境についての知識について、私と、市長や副市長とでは差があると感じており、私たちも研修する機会があればと希望する。

教育長

支援学級に通う児童生徒についても安全・安心を前提にできる限りしっかりと支援を行う対応を整えたい。

市長

千代川町の川の駅は、京都府が設置し、亀岡市が管理する施設である。ごみを拾い、自然を観察するなど子どもたちにとって良い思い出になるのではないかと期待している。

財源については、ふるさと納税を活用している。

委員

環境問題は、教育において中核テーマであり、プラスチックを廃止するだけでなく、これからどう生きる、何を目指して生きていくのかということ子どもたちに確実に届けないといけないと考える。環境学習がイベントだけで終わってしまうことはもったいない。イベントをどう学びの中に組み込んでいくのが重要と考える。

エコラフティング事業は、環境政策課が実施する事業か？

市長

予算が環境政策課についていて、学校で実施する事業。

委員

環境教育は学校だけで考えるのではなく、いろいろな仕掛けを用いて、イベントが確実に学びの中核に入っていくようになれば面白いと思う。

教育長

教育行政だけではなく市政も含めた全体で取り組んでいきたい。

市長

環境政策課においても、主体となって事業に取り組む。事前学習や現地での学習など、行政として先生をサポートし、一緒に進めていきたいと考えている。

委員

この取り組みはたいへん魅力的で、体験を通して学ぶ学習が子どもたちにとって、楽しく力になるものであると思っている。実際にごみを目の当たりにすることは、子どもたちにとって考えるきっかけになり、効果が期待できると思う。

修学旅行について、環境学習と別にしても良いのではと考える。

例えば4、5年生で学んだことを、6年生の総合学習で集大成に取り組み、中学1、2年で学んだことを、3年生で広い視野でのまとめ学習をする方法もあると考える。

他市にはない、亀岡市ならではの取り組みでたいへん楽しみである。

教育長

現在 pepper を使った環境学習が浸透してきており、千代川小学校においては、学校独自に「脱プラゴミ宣言」が出されるなどの取り組みがなされている。このように学校単位で、独自に変えていっても良いのではと考えている。

委員

ただいまの教育長の話を受け、学校に合った対策を考えることはとても大切なことだと考える。学校によって違う教育的課題がある状況で、一律に同じ対策を講じるのはナンセンスで、様々な課題解決に結びつかない現状があると考ええる。各学校のそれぞれの取り組みを共有していく形は素敵だと感じた。

市長

各学校の先生の力量が試されることに繋がるとも考える。各学校の特徴について教育長の考えを伺いたい。

教育長

学校は守りの体制に入ってしまうがちだが、校長先生には学校の改革を示していただきたいと強く感じていた。

昨年度はコロナ禍によって起きた様々な事象についてそれぞれの判断によって動かしていただくことは、校長先生の力だと思っている。

独自の発想を出し合い、失敗や成功を共有しながら新たな挑戦に向けて進むことで、先生の力量も向上すると期待でき、サポートをしていきたいと考える。

(4) 亀岡市の教育の基本理念について (資料4)

教育長 (説明要旨)

亀岡市教育振興基本計画は、令和3年度までの計画であり、第5次亀岡市総

合計画との整合性を図りながら、現在、第2次亀岡市教育振興基本計画の策定に取り組んでいる。第2次亀岡市教育振興基本計画は、令和4年度から令和13年度までの今後10年間の亀岡市の目指す教育の方向について協議を進めている。

教育委員を中心に、亀岡市教育振興基本計画検討会議を設置し、市民公募委員や学識経験者など幅広く意見を聴き協議を進めている。また、市民や保護者の意識調査も実施した。

亀岡市の教育の基本理念は、「ふるさとを愛し 心豊かに 未来を共にきりひらく」としている。

「ふるさと」「主体性」「共感」を柱とし、亀岡市の教育は、生涯学習都市宣言に掲げる「人権の尊重」、亀岡市民憲章に謳う「平和と人権の根づくまち」に基づき、人権尊重を根幹に置く人間像を目指すものである。

亀岡の今、未来を切り開く人々を育むこと、亀岡市ならではの教育を通じて、すべての人々が生涯にわたって力強く歩み続けることができる力を育むことを目指し、基本理念を考えた。

10年後に向け必要な教育として、1. ふるさとを愛し、持続可能な地域や社会を担う力 2. 自分の良さを知り、他者を尊重し共感できる力 3. 主体的に学び、新たな課題に挑戦する力 この3つの力を掲げている。

基本理念の概念図について、人権尊重を基盤に3つの育てたい力をバランスよく育むことを表現している。周りの取り巻く模様は、発展していくイメージと、住む人を包み込む豊かな亀岡の自然と多様性の尊重を多様な色で表している。

目指す人間像を表す文字のオレンジ色、育てたい力のみどり色、人権尊重の基盤の青色の3色は、亀岡市のプラごみゼロのロゴマークの3色を意識して使用している。

委員

ゼロベースから考えてできた基本理念である。基本的には、亀岡市教育振興基本計画検討会議で練っていただくものと考えている。最終的には、本市の教育大綱としていただければと考えている。

目指す施策について、普遍的な内容として、学力向上、人権教育、ふるさと文化教育を、また今日的な課題として、ICT教育、環境学習、SDGsの取り組みを盛り込むことは必要と考える。学校規模適正化に関わり、検討を推進とすることで、安全な通学路の確保についても必要と考える。

直面する複雑かつ多様化する課題に立ち向かうチャレンジ教育としての視点も盛り込んでいければと考える。

守るべきものは守り、優しく強くチャレンジしていくことが10年間の基本的な理念であると考えている。

委員

検討会議にて現状や課題分析を行い、解決に向けた新しい案等盛り込み、このような形になってきたと感じている。持続可能な地域や社会を担うことにつ

いて提案させていただいている。概念図においては、亀岡市の自然の良さと多様性について表現されており、第5次亀岡市総合計画との整合性が図られていると感じている。基本理念を掲げて終わるのではなく、教育に携わる者で共有し共に目指していくことを願っている。

委員

亀岡市ならではの、心のこもった理念となっている。これからもたくさんのいいものを作っていきたいと感じている。

委員

教育の基本理念という、とても大きな事業に関わらせていただいている。亀岡を象徴する基本理念であり、10年間で亀岡の教育がどんな形に変わっても対応できる理念となっていると感じている。

委員

デザインのコンセプトがしっくりときている。

これまでのワークショップのプロセスにおいて、いろいろな意見や思いが反映されたものであることが、しっくりくる感覚となっているのではと考える。

このことは亀岡の教育を考えるにおいて大事にしていかなければいけない目線であると考え。

公教育は、質をどれだけ担保できるかということが重要と考える。基本理念を考えるにおいて、大事にしたかったのは、目に見えない準備、プロセスであり、これを大事にすることで質の良いものができると考えた。

副市長

SDGsアドバイザーの高木超氏は、SDGsの目標は一つの問いかけであると言われていた。理念については、何をしていくべきかという委員の方々の様々な問いかけであり、その問いかけに対する大きなテーマをここで設定していただけたと感じている。

市長

教育委員の皆様には一から作り上げていただきたいへんありがたい。人権尊重の並びに、平和という言葉も入れていただき、平和を見える化していただきたいと思う。

4 報告事項について

・施設整備の状況について（資料5）

教育長（説明要旨）

小中学校の校舎耐震化は平成27年度に完了、空調設置については令和元年度に完了している。昨年のコロナ禍の状況の中、空調設備の設置が完了していたことは、子どもたちが心地よく学習に取り組むことができ、助けていただいた。

現場の先生も非常に喜んでいた。

体育館の非構造部材耐震化について、小学校については、令和元年度から10校実施、令和3年度は2校実施予定としている。中学校は、令和3年度から進める予定としている。

トイレの改修については随時進めており、令和3年度は、蕨田野小学校、本梅小学校で洋式化を一部実施、令和3年度から4年度にかけては、詳徳小学校、南つつじヶ丘小学校で大規模改修を実施する。また、令和3年度において、大成中学校のトイレ改修の実施設計を計画している。

学校施設整備については、よりよい学習環境のため計画的に実施しており、環境整備の遅れはコロナ禍であり仕方ないと思うが、できる限り早期に取り組んでいきたい。

市長

トイレ改修に関して、東別院小学校と畑野小学校が非常に低い改修率となっている。今年度は、改修を実施しないのか？

教育委員会

令和3年度の改修実施対象は、資料の赤字で表示している学校である。

市長

東別院小学校と畑野小学校について、学校規模の関係もあると思うが、早めの実施を願う。

委員

別院中学校に、先日学校訪問をした。当日は大雨で、尋常でない状況で雨漏りがしていた。非常に気になった。

市長

(教育委員会は) 調査するように。

委員

昨年度は夏休みが短かった状況で、エアコンが全校設置されていて、本当に良かったと感じた。

まだまだ整備が必要な状況ではあるが、トイレ改修について、学校格差がなくなっていくのは良いことだと感じている。学校現場において、トイレをきれいに保つことについてたいへん苦勞するところ。小学校では、多くの学校で各学期末に職員が普段できない箇所の清掃をしていると思う。そうしないと維持するのが難しい。しかし、掃除のプロでないため、十分に行き届かないのが現状である。掃除ができていない箇所があって、困っている学校については、業者の支援を受けることができればありがたいと思う。ウイルスの感染症が言われている情勢でもあるので、対応いただけたらと思う。

市長

検討していく。

全体を通して、ご意見をいただきたい。

委員

私のモットーは、「みんなで」「一緒に」「人と人とのつながり」である。

これが、コロナ禍の状況で寸断されることとなった。モヤモヤしている。

元の生活に戻るのには、なかなか先のことはあると思うが、今日の議題を通して、ワクワクしたり、ドキドキするような協議ができて、すっきりしている。

委員

大きな社会変化の中に、今、私たちはいるが、うろたえたり立ち止まったりするのではなく、能動的に働きかけることで危機を乗り越え、新たな価値を見出すことにチャレンジしているのだという捉え方をすることは大事だと感じている。亀岡市は、今、大きな変換の時期、節目を迎えている時なので、現状認識を共有しながら、新たな方向性を作ることに果敢に取り組んでいきたいし、やりがいを感じている。

委員

私のモットーは、「将来、まちをきれいにするおばあちゃんになる」こと。

教育委員就任時自分への褒美にトングを購入した。亀岡市をこよなく愛し行動できる人になろうと、スタートした。3年経過し、現在亀岡市には「エコウォーカー」という取り組みがある。また、子どもたちが、将来自然環境はどうなるんだろうと質問するなど、子どもから学ぶことがたくさんある。ごみを拾うのは将来のことではなく、今、行動する時だのごみ拾いを始めている。

ごみを拾うだけではなく、ごみを出さない、ごみにならないものづくりなど、SDGsを考える突破口としていくなど、私自身、力を養いたいと考える。

少子化が進み、統計上、1人の子どもに7人の大人が関わっている状況。一人ひとりの子どもの可能性を最大限に引き出すことのできる、亀岡市の教育を目指していきたい。

市長

是非、エコウォーカーに登録をしてもらいたい。登録をされると、トング・バック・ボトルがいただける。5,000人を目指している。他の教育委員の皆様もどうぞ登録を。

委員

社会が、これまでとは全く違う日常となっている中で、亀岡市はいろいろなことにチャレンジしている。チャレンジすることは、チャンスを掴むことにつながる。教育においても、制限のある中ではあるが、亀岡市独自のチャレンジのやり方で、地に足をつけた方法で進めていただき、今後の教育のチャンスとして、新しい教育の在り方、体系的な教育の在り方を確立していければと考えている。

委員

総合教育会議のムードが変わってきたように思う。とても大事なことだと思う。これまで教育に長く携わってきた中での私のモットーは、「持っているものしか伝えられない」ということ。

それゆえ、これからの教育を教育委員会で考えるにおいて、教育委員会の在り方が問われることになると思う。はたして従来の教育委員会で、新しいことを伝えられるのかと考える。

そこで大事なのが、反省的視点、批判的視点であり、この視点がなければ、現場も含めて、今後の教育を作っていけないと考える。

ムードが変わったことは良い意味で捉えている。この良い変化が教育現場にどのように伝わっていくのか、大事にすべき視点と改めて感じた。

副市長

コロナ禍の現状は、試練である。新しい生活様式を否応なく身に付け、実行していかなければならなくなっている。環境問題は、人間の生き方問題であり、人間が自分たちの生き方を変えなければ解決しない問題である。

環境を良くするのも、何のためにするのかと考える中で、人間は自然の一部であることを感覚として身に付け、自然が崩れると生きていけないということを実感し、また子どもたちに実感させることが環境学習であると考えている。

この共通認識のもと、社会を変える力となる、大人も含めた環境学習が理想と考える。

市長

前教育長時代は財政が厳しいことから、予算を切るばかりだったが、ふるさと納税の財源によりいろいろなことに挑戦できるようになってきた。

現在も予算が厳しいことには変わらないが、ふるさと納税で新しい事業に使えている。

教育委員の皆さんも、これがしたいので予算が欲しいといった提案をしていただきたい。今年度は、30億円のふるさと納税をもらうべく戦略を立てており、様々な学びに使っていただけたら良いと思っている。

5 教育長あいさつ

6 閉会